

第4回佐倉市地域福祉計画推進委員会 議事録

開催日時 平成29年12月21日(木) 午前10時00分～11時30分

開催場所 佐倉市社会福祉センター3階中会議室

出席委員 佐々木 とく子、佐川 章、深沢 孝志、稲村 多恵子、小林 眞智子、
宇田川 光三、石原 茂樹、小原 和夫、西廣 直子

欠席委員 なし

事務局 佐藤 幸恵(福祉部長)、菅沼 健司(社会福祉課長)、
小林 知明(社会福祉課管理班長)、櫻井 裕樹(社会福祉課地域福祉
班長)、福山 聡昭(社会福祉課主査補)、山本 あずさ(社会福祉課
主査補)、杉山 拓巳(社会福祉課主任主事)、堀川 洋一郎(社会福
祉課)

柳田 晴生(企画政策部参事・オブザーバー)

傍聴人 なし

〔 顛 末 〕

1. 開 会

2. 議事録署名人の選出について

前回の委員会に引き続き、委員名簿の順に輪番制で2名が務めることが承認され、今回は、石原委員・小原委員が任命された。

3. 議 事

(1) 中間報告とりまとめについて

【資料1】中間報告(素案)について、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

事務局の説明にもありましたが、中間報告(素案)につきまして、前回9月28日の推進委員会で提示された中間報告(骨子案)に加筆修正されたものが本日の資料(素案)として提示されました。また、11月16日に行われた庁内検討会における論点につきましても報告がありました。

ご意見、ご質問等ございますか。

始めに、資料の訂正の話がありましたが(資料1の39頁下から3行目から、40頁上から7行目にかけて。資料は訂正)、ご意見等ございましたら、伺いたいと思います。

【委員】

一つは、私が本来その事例調査に出席する予定だったが、急遽、欠席してしまったので、その場の臨場感が見えないのが欠点。当事者の志津地区社協のメンバーとしては、一番PRしたいこと、悩みや苦勞したことが、少し、その場

で表現できているのかどうか実は見えなかったもので、不安だったけれども、アピールしたい部分が、そこだと思い、訂正させていただいて、今回、事務局から代読していただいたものになります。視点は、ふれ愛喫茶やふれ愛サービスというよりも、むしろ新しい事業、試みとしてのいわゆる学習支援とこども食堂というものに、ちょっと補足したようなイメージをしました。あまりその場にいらっしゃらない方は分からないような表現が多々ありましたので、それを少し整理させていただいたというのが本音でございます。

【会長】

ありがとうございました。一応、そういうことでしたので、報告書のときには訂正していただくようにお願いします。

それでは、今、報告がありましたけれども、これについてのご質問、ご意見等ございましたら、お願いします。全部1回には難しいと思うので、区切りましょうか。

【委員】

ちょっとよろしいでしょうか。おさらいになるのかもしれないが、この第3次地域福祉計画がある。今回、中間報告ということで、計画書では、計画策定から計画の位置付けについてというのが第1章で述べられているのだけれど、中間報告ではそのあたりが一切なくて、計画の概要から入ってしまうということではよろしいのでしょうか。要するに、この計画書の中の、例えば、先ほど、第3次地域福祉計画と法改正の関係の図であるとか、法令が変更になったから加筆したという説明がありました。そうすると、計画書と中間報告の位置付けというのは、計画書がベースで、中間報告で加筆されると思ったのですが、中間報告が独立して動くということで理解していいのかというのが質問です。

【事務局】

今回の中間報告は、あくまで、2年間の実績を踏まえて、中間の報告としてまとめるもので、地域福祉計画を書き換えるという内容のものではありません。あくまで、別のものです。

【委員】

逆に言えば、計画書にある部分をこのようにやってきたという位置付けなのですね。

【事務局】

そうです。

【委員】

続いていいですか。この、こうほう佐倉に掲載した、「おしえて！地域の支え合い」が第1回から第9回までありましたけれども、実は、全部保管してなくて、インターネットで検索しようとしたのだが、取れない回があった。私の見方が悪いのか分からないけれども、それはインターネットを貼り付けたものなので拾えますかというのが質問です。

それから、もう1点は、「おしえて！地域の支え合い」というタイトルだが、教えてもらってこうだという、行政側の振り返りはないのでしょくか。要するに、こうでしたという広報の内容なので、何か最後に、最終回はその内容があったら嬉しいなというのが、読者としての感想なのですが。第2回から、市の事例調査の内容が出てくる情報提供みたいなかたちで、こうほう佐倉では、そういう位置付けがなのかもしれないが、最後にこれだけご協力いただいて、こうでしたと、事例でもこういうことで計画されて、活動されていますと、そして我々も、行政側から支えさせてもらっていますと、どういう内容になるかは分からないが、何かそういうものがあったらいいのかなと思いました。

【会長】

今、貴重なご意見をいただきました。この話というのは、全て行政の機関に結びついてくるような気がする。自分の感想なのですがけれども、いろいろ個別計画で実施されていて、このぐらゐの実績がありましたと載っているのだけれども、その実績は何なのかと言いたくなる。自分も行政に入っていて、常にそれを感じながらやっいて、いろいろやっだけれども、住民はその政策などに対してどう満足したのかなど、そういうものがない。それと合わせて今も、教えてもらってどうだったのか、行政としてこういうことをやろうと思っていると、キャッチボールしたときの答えというとおかしいが、そういうものもあっていいのかなと、今、話を聴いていて思いました。その辺というのは、最後の分として、3月の中間報告をとりまとめたときでもいいので、広報に、「おしえて！地域の支え合い」の結果というようなかたちで載せることができるのかというのはどうなのでしょう。何か投げっぱなしばかりで、常に、何か自分もやっいたときには、みんなにただ投げていて、反応を掴むというのは難しかった。しかし、自分たちはやっいてることで満足しているという、そういう部分がすごくあったように思う。だから、キャッチボールできるようなものがあるといいのかなというのをすごく感じました。

【事務局】

こうほう佐倉にその結果を掲載するかについては、社会福祉課担当のほうで検討してもらいたいと思うのですが、計画を策定して、PDCAで回していつて、こうでしたというお知らせは必要だと思うので、例えば、この中間報告を全て掲載することはできませんけれども、概要を載せて、詳しくはホームページで公開するのでこれをご覧くださいというような記事が載せられればいいかなとは思いますが、そういうかたちではいかかでしょう。

【委員】

結構です。アクションしてください。是非。

【事務局】

先ほどの、記事に関しては、広報から貼り付けたかたちなのですが、第1回から第9回まで、全部拾えていて、A4で両面3～4枚ぐらゐでまとめ

ることはできるので、お渡しすることもできます。広報自体もホームページに載っていますので、見ることは可能になります。

【会長】

それでは委員からの意見があり、それを部長にまとめていただいたが、是非、その方向でお願いしたいと思う。よろしく申し上げます。その他に、ございませんか。

【委員】

私どもの最初、計画書で、「地域を歩こう。あいさつしてみよう。」というところで取材をしていただいたが、それから2年ぐらい経ちますと、また、挨拶運動から広がりがあるって、地域で、毎朝子どもたちを危険だということで、横断歩道に立ってくださる方が増えたとか、下校のときの活動が増えたりとか、その効果が少しずつ地域に広がりを見せてきているような感じがある。ですので、最初取材して時間が経ったところが、どんな感じであるかということ、地域で調査するというのも、1つ、例えば、ラジオ体操にしても、また、ねっこの会は、最初来ていただいたときは、対象人数は小学生が8名、中学生が7名だったけれども、今はもう小学生20名以上いる。また、ボランティアの方もいたり、状況は広がりを見せているということも、やはりせっかく取材した意図はそういうところだと思う。ただ調査をしてこれだったということではなくて、このことがきっかけになって、地域の中で広がりを見せてきたということも大事なことかなと思うので、その辺をちょっと考えてもらえるとありがたいなという風に思います。

【会長】

ありがとうございます。そういうことで、何か工夫してというよりも、一度アンケートなりをしていただいて、活動の広がりについて、加筆ができるといいのかなと思います。ただ、今回の中間報告の中には計画書の事例は入っていないですけども、その部分のものをどこかに載せられるといいのかなと思います。その辺いかがでしょうか。

【委員】

関連で、すいません。最後の46頁に、「行動を起こすきっかけとなるような内容とし」、それで、「輪が広がり」という表現がある。これは結局今おっしゃったように、最初情報を発信したが、実はくみ取りはあまりちょっとできていない。それを少し、種を蒔いたのだから、芽が出て、花が咲くところまで見て始めて、この活動は成功した、うまくいっているのだなと分かる。46頁のこの表現が、きっかけ作りを行政としてやりました、次に輪が広がってというところから、この活動が多くの人に伝わって行って、地域で自立的に動き出したというかたちまでいけば、行政としてはいいのではないか。そういうところが、こう具体的に、この事例でスタートをかけましたとかというようになると、この文章自身が、抽象的ではなくて、ある程度、佐倉市もなかなかやって

いるというかたちになるのではないかなと、ふっと思います。こういう報告書を見ていると、無味乾燥とっては失礼だが、文章の言葉尻だけで、具体的に何をしているのかなという、結びつきがあまりできていないように拝見する。この結びつきがないと地域の人というのは、身近な問題として捉えることが難しい。こういう活動で、なるほど、こういう活動を広げていったらいいのかなとか、具体的なきっかけをせっかく作っていただいたから、これを展開するようなかたちを、さっき部長がおっしゃったように、PDCAですから。これがやっぱり、本当に身を結んでいくようなかたちを期待したいなと思います。

【会長】

貴重なご意見ありがとうございます。本当にこう何をしているのか、具体的なものが見えてくると、私たちが地域で何かをやるときに、すごく動きやすいなという感じはしますので、その辺も加筆にするのか、どういうかたちで取り組むのか分からないですけど、検討していただければと思います。よろしくお願いします。

【委員】

うまくいったところもあると思うが、うまくいかなかった部分もあると思うので、何でうまくいかなかったかというのが分かれば、立ち上げというときに、大事になると思う。

【会長】

何でもうまくいったことは書きたくなるけれど、うまくいかないのは書きたくない。その辺も合わせて、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【事務局】

貴重なご意見をいただきました。報告書というかたちなので、どうしてもこういうかたちになっていた。この報告書をどう書き換えるか、ちょっと検討させていただきたいと思いますが、3月に最終的な報告書というかたちで上げさせていただきますので、どこまで今の意見を反映できるか検討したいと思います。

【事務局】

もちろん検討しながら進めていくしかないが、今、委員の方がおっしゃったように、事例についても、それがどうなったのかという検証が必要だと思う。今回のこの委員会は来年の3月でいったん終わるのですが、その次の委員会がまたあるので、その中で報告させていただきながら、今後、計画にどのように活かすかというのでも考えていければと思いますので、今回の報告書に関しては、基本的にはこのかたちのままでいかせていただいて、4月以降にまた改めて事実の検証とか、これはよかった、これはこうしていきましょう、これは市民に広まったというようなかたちを取ればいかなと思うのですが、いかがでしょうか。

【委員】

今の意見にも関連するのですが、中間報告そのものの位置付け、いわゆる地域福祉計画全体の中で、この中間報告をどういう位置付けで捉えているのか。例えば、1頁の計画の概要の第2章、第3章、特に、項目としては対象になるのかなと思うし、3頁からの計画の位置付け、全体の計画の位置付けの中で、中間報告で今出されているいろいろな意見、また、この中間報告の中でもいろいろな報告がありますけれども、どの部分にどういう風に活かしていこうかということまでは、この中間報告の議論の中では出てこない。その辺がちょっと見えないから、いろいろな意見が出てしまうと思う。それが今ちょっとどうなのかなと思った点です。

それと、成果指標の中で、全体に言えるのでしょけれども、確かに、市民の意識調査と団体の意識調査では、当然評価の仕方が違ってくるし、団体のほうが、いろいろな意味で意識が高い、実践している、それが明確に出ている。その中で、18頁の(3)の「市民意識調査の結果に基づく、設問3及び設問4の目標値の設定」で、一般的にいろいろな統計を見てみると、「そう思う」と「どちらかというと思う」は、概要で言うとだいたい同じように「そう思う」方向に入っている。「そう思う」のほうが明確に出ているわけけれども、「どちらかというと思う」のほうでも、かなり「そう思う」に近いものもある。その辺のことを、もっと前向きに捉えてもいいのかなという気がした。いずれにしても、中間報告の位置付けを、最終的に地域福祉計画の中で、どの部分にどうやって反映していくのかということは、庁内で検討することだとは思いますが、委員にも、分かるようにしていただければありがたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。いかがですか。一応、いろいろ計画が策定されまして、その中間報告をどのような位置付けで、この計画に基づいて、推進されたのか、そういうような中身のものとして、どういう位置付けなのかなということだと思うのですが、1つ、3頁までの計画の位置付けということで、ここに記載されているけれども、それらを推進していく中で、どれにどう位置付けられたから、整理されたのだよということでもよろしいのでしょうか。要するにここで言っているのは、地域住民にいろいろなことをやっていただくことで、これを進めてきたわけけれども、それがこの計画の中の位置付けと推進の中で、どう繋がって、推し進められてきたのかというのがこれを一目見ただけでは分からないということでしょうか。

【委員】

中身としては、中間報告の中でもかなりいいことをやっている。地域の中でも。地域によっては、あそこまでやるのというところまでやっているところもあるし、市としてこれをまとめていく場合には、温度差があっても、市全体としては、こういう方向で、こういう評価で、この計画の中ではこういう位置付けがあって、こうしていきますよということを確認に出していかないと、中間

報告というのは大事だと思っているが、中間報告の意味がなくなってしまうのではないか。これだけの調査をしているわけだから。これを是非活かしてもらいたいなど。活かす中で、1つの例として、「そう思う」だけでなく、「どちらかというそう思う」という意見でも、かなり「そう思う」に近い人たちもいるわけなので、そういうことも含めて、なかなか文章上難しいけれども、私は佐倉市そのものはすごくよくやっていると思う。そういうことで、地域福祉計画の中で、それらを活かした方向に中間報告をもっていってもらえればありがたい。そういうことを個人的には思っている。

【会長】

ご意見として伺うだけでいいですか。

【委員】

この場で事務局の意見を聴いてもいいし、中間報告はこういう方向でいいのでしょう。中間報告を、地域福祉計画のいろいろな項目の中で、こういうことがありましたというだけではなくて、こういうところに、こういう風に反映していきます、反映しました、そういうことでいいのですよね。私も全部関わってきたわけではないから、全部が全部見えているわけではないけれど。

【事務局】

中間報告というかたちは取っているけれども、計画の中でもこの市民意識調査により意識を捉えた中で、主にはそういう意識付けという部分をこの計画のメインとして謳っていて、ある意味そういう部分で、市内の活動されている事例を調査していく中で、このような活動をたくさんされていますと、きっかけの部分、計画としての事業としてはそれがメインになっているのですけれど、その他の施策の中身についても、個別計画として、行政としてやるべきことをやっていますということで、この2年間での成果を取り上げた結果がこれですというかたちです。主にはその成果を踏まえて、中間報告の最後の次期計画に向けて、この計画の位置付けをもう1回確認するというのが、中間報告としての使命なのかなと思っています。その辺の流れを、実際の計画の位置付けと中間報告の関わりみたいなものを、もう少し中間報告の最初のほうの中で、少し加筆することを検討したいなと思います。すぐに言えないのは申し訳ないが、流れとしてはそういう流れの中間報告をイメージしています。

【委員】

最初のところから分かっていないのかもしれないのですが、中間報告というのは、かたちにして市民のみなさんが見ることができるような、これをどこに周知するのですか。

【事務局】

基本的には、ホームページに掲載する。

【委員】

先ほどからの事例の経過報告についてなのですが、中間報告には書かな

くても、詳細はホームページにみたいなかたちでもいいのかなと思った。

【事務局】

やり方としては、そのようなやり方もある。

【委員】

私は、今までの貴重な意見は全くその通りだと思うが、この委員会の限界みたいなものを、かなり前から感じていまして、あくまでも上位計画というのがありまして、そのあとに個別計画があって、それで地域福祉計画というかたちであるわけで、中間報告にあるいろいろな活動の事例なども、社会福祉課が主催したり、リードしたりしたものではなくて、高齢者福祉課であるとか、各部門の個別計画を抽出して、提示していくというかたちなのですよ。そうすると、個別の事業について、さらに詳細に分析をして、こうしたほうがいいのかたちまで持っていくのは、極めて技術的に難しい問題なのではないかなというような気がしている。ただ、この中間報告の中で、非常に感心した部分がございます。それは、最後のほうの、次期計画の位置付けについて、それから、計画の性格と方向性について、この部分は、実に今後のあるべき姿について、きちんと捉えているのではないかという気がする。しかし、それを、社会福祉課がそのまま押し通そうとすると、各個別計画との問題とか、それから上位計画との問題とかが、必ず発生してくる。したがって、この今掲げている、位置付けや方向性について、是非、上位計画に反映され、あるいは、個別計画に反映されるような、働きかけは庁内ではできないかという気がいたします。それを受け止めるのは、どこで、どのようなかたちで表現されるか分からないが、少なくとも、今回の中間報告をもって、各個別計画、あるいは、全体の計画に対して、強い提案をしていくだけでも、私は、十分な意味合いがあるのではないかなと気がいたします。非常に的を射た評価をしておられたなど感心しておりました。

【会長】

ありがとうございました。

【事務局】

こちらも国の大きな流れに沿って、市全体も動いておりまして、諸々の個別計画との整合性につきましては、庁内の検討会の中で持ち合って、国の方針に則ったかたちで、大きな流れがゆっくり動き、整えている。

【委員】

大きく変化している。各自治体に、各地方のことは、みなさんできちんとやりなさいよということが明確に出ているから、その辺は各個別計画なり、全体の計画の中が、よく社会福祉課の方が認識していることを、共通の認識として理解していただければ、個別計画にも表れてくるであろうというような気がする。

【事務局】

庁内の各セクションで、それぞれ、上位計画や計画などに則って、計画を作っているが、市の中でも、横の連携、横串と言ったりするが、横の連携をどんどん図っていくようなかたち、ボーダレス（境界がないこと）で進めているところです。

【会長】

横串に期待をしながら、今まで出された意見のほうを重視していただいて、次の中間報告の提出までに、していただければ。その他に、ご意見ご質問等はございませんか。

【委員】

計画書に佐倉市の取り組みなどが出ているが、私は企業人なので、企業は必ず数値化しないと達成度が見えない。こういう抽象的な表現だと、どのくらいできているのか、どのくらい満足だったのか、分からない。それがいいのかもしれないが、ただ、市民、地域住民のほうは、どれだけ行政のほうでそういう力添えをしていただいたかが見えると、押し売りではないが、これだけやったからどうだという話ではないが、もう少し近づくとと思う。そういう意味でいくと、取り組みというのは大義名分があるけれど、それに対して具体的にこの項目ではこういうことを実施しました、やってみましたという紐付、要するに、事例調査がこうでしたというのが例えばあるが、事例調査はこういうところに気を付けながら、支え合いなどに向けて調査をしましたというのがある。そういう、身近な紐付、結びつきが、住民にとってはなるほどということに繋がるのではないかなと考えます。ですから、中間報告で述べるのと、次の議題で地域福祉フォーラムのことをやると思うのですが、こういうところでは、まさしくそういうことが、実感として聴いている側に納得できるようなかたちで示しないと、なかなか難しいと思う。

計画書の取り組みを今さら数値化するという話ではない、先ほど、市民意識調査の「そう思う」についての話が出たが、「そう思う」というのは生活環境などに変化があるから、その変化によって、住民の意識が変わってくる。意識が変わっているアンケートの母数自身が、同じ人ではないのだから、そういうことも考慮すると、かなり危険な考え方、考察になってしまわないかなと思う。だから、「そう思う」と一概に喜ぶわけではなくて、その中の背景で、やはり住んでいる方、年齢もありますし、住民の転出・転入もありますし、そういう変化の中で、決定的にそれでアンケート結果だからこうだというのは危険があるので、これはアンケートの欠点としては欠点だが、その辺を少しヒントになるぐらいのかたちにして、今までの取り組みについては、こういうかたちで少なくとも実施して、それなりの成果を上げていると思いますぐらいのものが中間報告では欲しいなと思っています。

【事務局】

市としても、住民の方の満足度というものを、よくお声をいただくのは苦情

が多いところをごさいますて、満足度を調査するというのも、市民意識調査の中に、満足度調査というのもあって、転出される住民の方々に、どうでしたかという問いかけもしているところである。施策それぞれの満足度いうものを、これから民間の視点も取り入れて、考えていかなければならないと思う。その辺をこの市民意識調査の項目の中に少しずつ取り込んで、それでみなさんの意識のレベル、高さを推し量る指標にさせていただいているのが現状でございまして、委員のおっしゃることは、これから市もやっていかなければならないと認識はしております。

【委員】

よろしいですか。やはり、今日の議論の柱になっているのは、計画を作って、それをどう活かしていくかということだと思うが、社協もそうなのだが、計画を策定する際に、どうしても一方的なものというか、ともすると自己満足的なものに終わってしまいがちというのは、自分の経験上ありまして、計画の策定や推進を通じて、市民にどんな影響を及ぼしているのか、効果を出そうとしているのか、それが出たのかというのは調査して、報告とか特に最終報告に反映しなければいけないと思っている。その中で、平成28年、29年と団体調査をした中で、ほとんどの団体が社会福祉協議会と関連があり、非常に我々と近いところで、活動してくださっていると感じていて、実際にこの地域福祉を語るうえで、市民の方の活動とか、活動内容とか、活動を通じての成功事例だったり、失敗事例であったり、あるいは、問題や課題というのは、我々日々接している部分が多い。ですので、社会福祉協議会としてはその地域福祉計画を通じて、どのような影響が出たか、波及効果があったのか、取り上げた団体の活動がその後どうなっているのか、今抱えている問題は何なのか、そのあたりの調査というのは十分社協として協力できると思う。そういった部分でも、連携を取らしていただければ、中間報告はあれですけれども、最終報告の段階では、いかにこうした効果が出たのだということを言っていけるように、我々もお手伝いしていきたいと思っております。そういった中で、あるいは、我々がやっている地域福祉活動計画の趣旨としては、市が掲げるこの地域福祉計画の理念を実際の活動として実践していくという部分を担っているのだから、そういったところでは、やはり連携をして、我々のほうとしても生の声を市のほうに提供していきたいという風に思っている。

【事務局】

ありがとうございます。やはり、地域福祉の推進のためにも、市と市社協が手を取り合って、進めていかなければ、どうしても、市だけでは手の行き届かないところがあるので、是非、よろしくお願ひしたいと思っている。

【委員】

この前も少し話をしたが、結局、市の地域福祉計画と社協の福祉活動計画、位置付けとすれば、まず市があって、社協があってということなのだろうけれ

ど、実際現場の住民からすれば、例えばいろいろな支え合い活動がいっぱいありますけれど、市から発生したものなのか、社協から発生したものなのかは、どちらでもいい。結局、住民のためになればいいのであって、そういうことが基本だと思う。ただ、その前に、住民の支え合い活動が、最近かなり活発になってきたけれども、これを社協は市の方針に基づいて、いろいろな施策を練る、市のほうは、社協も含めて、ボランティア団体が有効にできるようなそういう施策を、これからもどんどん進めてもらう。特に、市と社協との連携というのは大事だと思う。そういうことで、これからも、是非、連携を密にしてもらいたいと思う。

【会長】

今、いろいろな話を伺って思ったことだが、先ほどの話で、どれだけ行政が力添えをしてくれたのか、その辺というのがなかなか見えていない部分があるのかも分からないけれども、いろいろな個別計画の中で、例えば、いろいろな事業をやっている、地域交流事業をやっているとか、子どもだったら、地域子育て拠点支援事業をやっていますけれども、これらの事業のあとに、みなさん私的なサークルを作っている。そういうことが、いろいろ援助をしてできたのだよという数が見えてくると、また、市はいろいろとやってくれたのだなという思いが出てくるのかなと思いました。だから、この個別計画の、食生活改善推進委員地区活動というのがありますけれども、参加人数がこれだけありました、このあとに、いろいろ「とまとの会」などができている。そういうものが、次期計画の中でもいいですから、見えてくると、また違ったものが出てくるのかなというのを、今、話を聴いていて、感じました。それから、この計画で、何回やりましたという実績のあとに、こういうものができているというのが繋がってくると、また違ってくるのかなというのを思いました。それと、社会福祉協議会の力強いご意見、そういうようなものを含めてできれば、住みよい佐倉になるのではないかと感じた。また、よろしくお願ひしたいと思う。それでは、他にご意見ご質問はありませんか。もしないようでしたら、次の議題に入りたいと思います。

【委員】

32頁と33頁に、笑いヨガ・ミュージックがある。ここだけが、「今後の展開」だけで、「課題」がない。これは、課題はないということなのでしょうか。この事例調査に同行していないので分からないが、「課題」というのはありそうに思うが、なければならないにこしたことはない。あまりそこに深入りするつもりはないが、他の事例との横並び、横串的に見ると、他は「課題」もあるのに、ここだけが「課題」がなくて「今後の展開」だけあるのが、ちょっと気になった。

【会長】

確認していただいて、課題がなければそれでいいので、よろしくお願ひしま

す。それでは他にご意見がないようなので、次第に従って、進めたいと思う。

【事務局】

「課題」の項目だけでも設けることを検討する。

4. その他について

【資料2】地域福祉フォーラム実施要領・プログラムについて、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

それでは、この地域福祉フォーラムについて、何かご質問ご意見等ございましたら、お願いしたい。

【委員】

先ほど、チラシができたという話があったが、周知や方法などについて教えていただければ。

【事務局】

まず、市主催なので、市の関連施設、出先機関を含めて広報をさせていただき、社協も主催なので、社協さんを通じて広報させていただきたいと思っている。あと、ホームページへの掲載と、2月1日号の広報に内容を掲載することになっている。

先月、地域包括ケアシステムの研修会を高年齢福祉課のほうで行ったが、地域包括支援センターの生活支援コーディネーターが声掛けをして、地域福祉フォーラムと同じ会場だが、200人ぐらい、結構来場があったということであった。中間報告をまとめるにおいても、地域包括ケアを担当している職員とも話をしております、1月に各圏域の生活支援コーディネーターの集まりがあるということで、そちらにも周知させていただいて、前は周知していなかったと思うが、地域包括支援センターのほうにもお声掛けをしたら結構みなさん興味を持つのではないかと、高年齢福祉課の職員にも言ってもらっているので、そちらのほうの広報をしたり、あと、今、イオンユーカーが丘に市のお知らせを入れるパンフレットスタンドがあるので、そこは今年度から産業振興課が管理しているが、空いていればそこにも置いたりして、なるべく多くの方に来ていただけるようにと思っている。

【事務局】

個別に、民生委員さんのほうには、1月、2月にご案内をさせていただこうと思っています。

【会長】

より多くの人に聴いていただいて、きっかけになるような、そういうもの

にしていけたらと思います。

5. 閉 会